

地震は洪水や土砂災害などと違い、いつどこで起きるかわかりにくい自然現象です。
いざというときにあわてず適切に行動できるよう、日頃から地震時の心構えを身につけておきましょう。

熊本地震

平成28年4月14日、16日に発生した熊本地震は、史上類を見ないマグニチュード6.5の前震とマグニチュード7.3の本震の同時発生であったことから、道路、橋梁等のインフラ、災害時の避難所となる学校、公民館等の公共施設、さらには、河川の堤防や急傾斜地の擁壁などに甚大な被害を与えました。

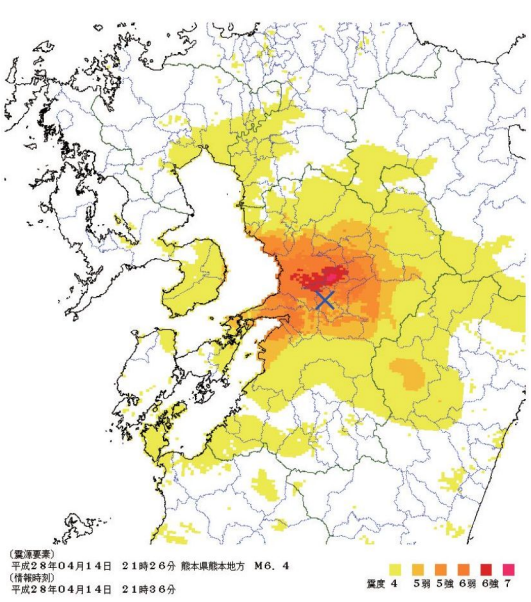
状況写真



①熊本地震の概要(前震・本震:発生日時、震源地、震度分布図)

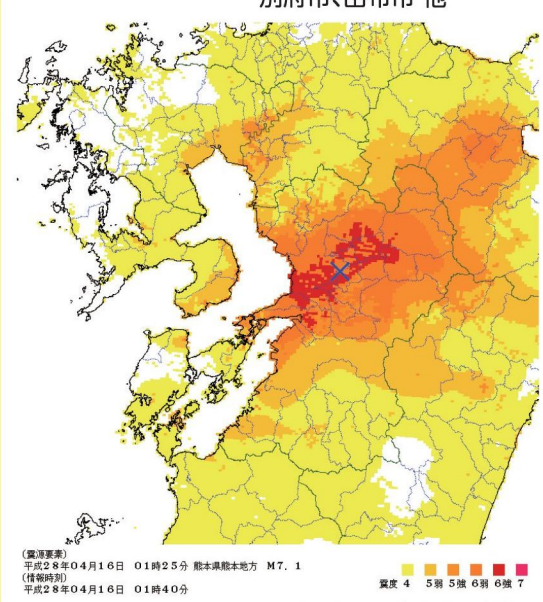
前震

発生日時 : 4月14日(木)21時26分
震源地 : 熊本県熊本地方
(北緯32°44、東経130°48)
震源の深さ: 11km
地震の規模: マグニチュード6.5
各地の震度: 震度7 益城町
震度6弱 玉名市、西原村、宇城市、
熊本市、嘉島町
震度5強 御船町、菊池市、宇土市 他



本震

発生日時 : 4月16日(土)1時25分
震源地 : 熊本県熊本地方
(北緯32°45、東経130°45)
震源の深さ: 12km
地震の規模: マグニチュード7.3
各地の震度: 震度7 西原村、益城町
震度6強 南阿蘇村、菊池市、宇土市、
大津町、嘉島町、宇城市、
合志市、熊本市
震度6弱 御船町、阿蘇市、山都町、
別府市、由布市 他



※内閣府および気象庁の資料より

②人的・物的被害の状況(平成29年10月16日現在 内閣府の情報より)

(1)人的被害(前震(4/14)による被害を含む) (人)

都道府県名	死亡	重傷	軽傷
福岡県		1	16
佐賀県		4	9
熊本県	246	1,165	1,553
大分県	3	11	23
宮崎県		3	5
合 計	249	1,184	1,606

【参考】熊本県における死者数の内訳(熊本県より報告 平成29年10月13日16:30現在)
・警察が検視により確認している死者数 50名
・災害による負傷の悪化又は避難生活等における身体的負担による死者数 191名
・6月19日から6月25日に発生した豪雨による被害のうち熊本地震との関連が認められた死者数 5名
大分県における死者数の内訳(大分県より報告 平成29年3月27日16:30現在)
・災害弔慰金法に基づき災害が原因で死亡したものと認められたもの 3名

(2)建物被害

都道府県名	住宅被害			非住宅被害		火災 件
	全壊 棟	半壊 棟	一部破損 棟	公共建物 棟	その他 棟	
山口県			3			
福岡県		4	251			
佐賀県			1		2	
長崎県			1			
熊本県	8,664	34,335	153,907	439	11,062	15
大分県	10	222	8,110		59	
宮崎県		2	39			
合 計	8,674	34,563	162,312	439	11,123	15

御船町周辺で起こるおそれのある地震(活断層)

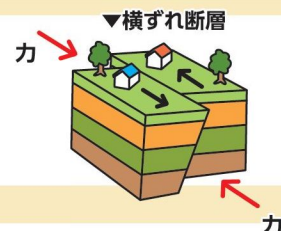


過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。日本周辺には約2000もの活断層があり、それ以外にもまだ見つかっていない活断層が多くあると言われています。阪神・淡路大震災や熊本地震は、活断層の動きによって発生した地震です。御船町周辺にある活断層として、布田川断層帯と日奈久断層帯があります。

- 特徴**
- 人の住む地域の直下でも起きるため、地震の規模が比較的小さくても被害が大きくなりやすい。
 - 地表に段差や横ずれができて丈夫な構造物も壊れるおそれがある。

発生の仕組み

長い年月をかけて地下の岩盤に力が加わり、それが限界に達したとき、岩盤が「断層」を境に急速に動きます。こうして地震が発生します。



力

緊急地震速報が出されたら

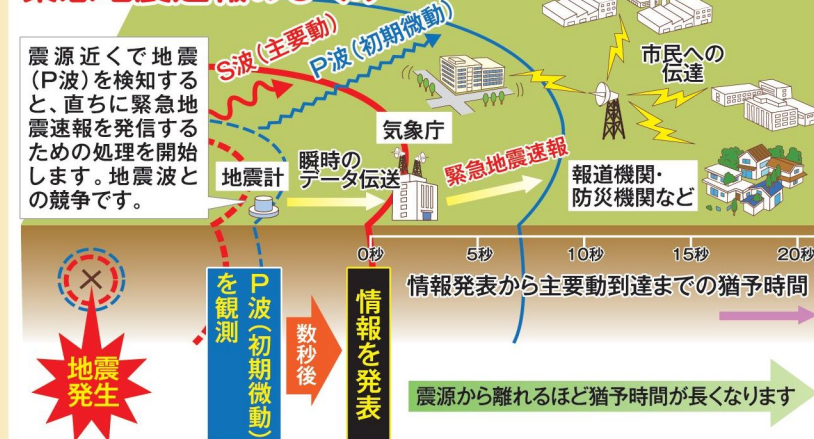
周囲の状況に応じて、あわてずにまず身の安全を確保しましょう。

緊急地震速報は、地震の発生直後に、震源近くで地震波をキャッチし、強い揺れが始まる直前にすばやくお知らせする情報です。最大震度5弱以上が推定される場合に、テレビやラジオ、メールを通じて、もうじき揺れることをお知らせします。

緊急地震速報を見聞してから強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒しかありません。その短い間に、自分の身を守ることを最優先に行動しましょう。

震源に近い地域では、緊急地震速報が強い揺れに間に合わないことがあります。

緊急地震速報のしくみ



地震発生時の心構え／行動のポイント

地震発生	最初の大きな揺れは1分間	心構え／行動のポイント
発生1～2分	揺れが収まったら まず火の始末	●まず、身を守る 机の下などへ。慌てて外へ飛び出さない。家具から離れる。 ●すばやく火を消す 危険が伴うので無理はしない。 ●脱出口を確保する ドア、窓を開ける。 ●土砂災害の危険が予測される地域は、すぐ避難!
発生3分	隣近所の安全確認 火災の発生を防ぐ	●火元を確認する 火が出たら落ちて初期消火。 ●家族の安全を確保する 倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか。 ●靴をはく 室内に散乱したガラスの破片などから足を守る。 ●隣近所に声をかける けが人・行方不明者の確認、救出・救護。 ●近所に火が出ていたら初期消火 大声で知らせる。消火器を使う。バケツ/リレーをする(風呂の水をためおきしておく)。 ●余震に注意 ●非常持出品を用意する
発生5分	ラジオなどで 正しい情報入手	●正しい情報をつかむ ラジオや町役場、防災行政無線の情報を聞く。 ●電話はなるべく使わない 緊急連絡電話が優先。安否確認は「災害用伝言ダイヤル(171)」で。 ●家屋倒壊などの危険があれば避難 避難をするときはガス栓をしめ、ブレーカーを落とす。
発生10分 発生数時間 発生3日くらい	協力して消火 救出・救護活動	●助け合いの心が大切 力を合わせて消火活動、救出・救護活動。 ●水・食料は蓄えているもので 3日分の飲料水と食料を備蓄しておく。 ●壊れた家には入らない 無理をして、二次災害を起こしてはいけません。 ●災害情報・被害情報の収集 引き続き余震に注意。

地震にあったときの対処法

屋内にいるとき

●スーパー・ショッピングモール

- ・ショーケースの転倒、商品の落下、ガラスの破片に注意する。
- ・柱や壁際に身を寄せ、衣類や手荷物など身近なもので頭を守る。
- ・店員の指示に従って行動する。

●エレベーター

- ・ただちに各階のボタンをすべて押し、停止した階ですぐに降りる。
- ・停電などで閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け外部に助けを求める。

●地下街

- ・耐震構造となっており、比較的安全と言われている。壁や大きな柱に身を寄せて揺れが収まるのを待つ。
- ・火災が発生したらハンカチなどで鼻と口をおおい、壁づたいに体を低くして地上に避難する。

屋外にいるとき

●車の運転中

- ・ハンドルをしっかりと握り、少しずつスピードを落として道路の左側に止め、エンジンを切る。
- ・揺れが収まるまで車外に出ず、カーラジオで情報を確認する。
- ・道路に駐車した場合、車を離れるときは窓を開け、キーをつけたままにする。ドアロックもしない。
- ・車内にある車検証や貴重品などを持ち出す。

●住宅街

- ・ブロック塀や石壁、門柱などから離れる。
- ・屋根瓦やガラスの破片などの落下物に注意。
- ・切れて垂れ下がった電線には触れない。

●繁華街

- ・ガラスの破片や看板などの落下物に注意。
- ・手荷物などで頭を守りながら、広場などに逃げる。
- ・建物や塀、電柱、自動販売機などから離れる。

●バスや電車の中

- ・急停車することがあるの、つり革や手すりなどにしっかりとつかまる。
- ・停車後は、勝手に行動せず、乗務員のアナウンスに従って落ち着いた行動を取る。

●山やがけ付近

- ・揺れを感じたら、できるだけ遠くに離れ、平らで安全な場所へ避難する。
- ・余震により土砂崩れが発生したり、緩んだ地盤が降雨で土砂崩れを起こすこともあるため、安全が確認されるまで、山やがけには近づかない。

冷静な判断が大事!